

動労第35回全国大会

「千葉問題」「水本問題」で全面対決!

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

鮮明となった 動労千葉の路線的正義性!

第三五回全国大会は、全国の良心的組合員の怒りを代弁するものとして、一二地本を中心とした決起をもって、革マル反動集団の野望を打ち砕き、動労大改革運動の勝利へ大きく前進した。これは、動労千葉がこの間一貫として主張し続けてきた、「三里塚に一線を画する」「貨物安定宣言」「水本・謀略運動」という運動路線の右傾化と「組織(機関)の暴力支配・セクト的引き廻し」がまさに一体のものであるということが動労の全職場・生産点に定着し、その当然の結果として、誤れる路線と暴力支配がともども生産点から拒否されているということの具体的現れであり、動労千葉破壊攻撃に対する七ヶ月間の激闘の勝利が切り拓いた地帯である。ここでは、第三五回全国大会における最大の焦点であった、「千葉問題」を中心とする組織問題と「水本謀略」についてふれてみることにする。

「千葉問題」は組織運営の基本問題!

昨年の津山大会以降最大の組織問題としてあった「千葉問題」について、第三五回大会には「千葉地本再建の取組みの中間総括と今後の方針について」なるものが、職場討議にもかけられぬまま出されてきた。

この中では「千葉再建は極めて困難である」「しかし、従来の方針を踏襲して取組む」と書かれているだけで、組織的展望など全くなく、今後「千葉オルグ」と称して組合員をかり出し、「組合費をむだ使いする」という以外のことは何も書かれていない。

当然にも、この「方針案」に対しては、動労の民主的改革をめざす立場から全国12地本代議員連名による全面修正動議が出され、一時休会にして調整しなければならぬほどの大論争が展開され、最終的に、革マル反動集団が最もやりたくなかった「採決」までに至る全面対決が貫かれたのである。

修正動議の骨子

全面修正動議の骨子は、第一〇五臨中で示された、「組織の強化と統一のための決議」を基調とするもので、「今日千葉問題は、動労組織の内部問題にとどまらず、労働組合の組織運営、機関決定のあり方などの基本原則が問われる問題である」とこの間の反動革マル集団の勝手気ままを鋭く批判し、具体的を取組みとして

- 1、動労千葉との組織統一のため直ちに協議する。そのために
 - ①当面一さいの統制処分のタナ上げ
 - ②一さいのキャンペーン活動の中止
 - ③現地オルグの中止
 - ④現地闘争本部の行動の中止
 - 2、統一のための協議は無条件とし協議の中で取扱いを整理する。
- というものであった。

革マル派のセクト運動拒否!

動労の私物化、セクト化をたくらむ革マル反動集団にとって、「水本」に関する方針の全面削除を求める動議は痛打であった。方針案の中に、革マル派のセクト運動である「水本」と動労運動を一体化させる内容をこっそりともぐり込ませようとする策動は全国の良心的、戦闘的組合員に見破られ、はっきりと拒否されたのである。

さらに前進しよう!

このように、第三五回全国大会では全国の良心的、戦闘的組合員の決起によって、反動革マル集団の提起した方針の反動性が徹底的に暴露された。この間、動労千葉が主張してきたことの路線的正義性は、この大会論議を通じて、さらに鮮明になった。動労大改革へ向けさらに前進してゆこう!

「動労千葉」で紛糾

4時間にわたる教論...の大会4日
3月11日 東京 朝

【熊本 熊本県内）開かれていた 闘争、組織統一問題を中心とした 千葉(関川幸委員、千葉市 国鉄動力車労働組合(林大蔵委員長) 向う一年間の運動方針案について 修正動議が出されて紛糾、約四時 間にわたる激しい議論が交わさ

れ、内部対立の激しさをのぞかせた。修正動議は二百二十三対七十で採決されたが、スケジューリングが大幅に遅れ、予定されていた運動方針案の採決は最終日の十一日にずれ込んだ。この間に、革マル派の代表委員が修正動議として「動労千葉も反響すべきは反省し、動労千葉とより組織統一のためたがいに協議を始める」とことを要請。具体的には当面一さいの統制処分をタナ上げる。④現地オルグをやめる。⑤キャンペーン活動を中止する。⑥同問題対策委員会を設置するなど緊急動議として提案した。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!